

## 多文化共生教育支援事業報告書

### 1 委託業務名・概要

(1)業務名 外国人児童生徒の学習支援

(2)概要（事業の要約・事業の目的など）

公立小学校に在籍する外国人児童生徒を対象に学校と NPO が協働して日本語学習支援等を実施した。（第 1 期：夏季期間の学習支援）

公立小学校に転入学してくる外国人児童生徒が、日本の学校に受け入れ易いように、初期の日本語指導や適応指導を支援した。（第 2 期：2 学期国際学級の学習支援）

学習支援を実施するボランティアについては、指導者研修会を開催し、学習支援の充実をはかった。

### 2 実施事業について

(1)実施時期 平成 17 年 7 月 1 日（金）～平成 18 年 2 月 28 日（火）

(2)実施地域 豊橋市立多米小学校、岩西小学校

(3)事業の具体的内容

実施時期を第 1 期：夏季期間の学習支援、第 2 期：2 学期に国際学級における学習支援を実施する。（全体の開催目標 50 回）

- ・第 1 期は多米小学校サマースクール、岩西小学校国際学級夏休み勉強会に両校の先生と NPO・PTA のボランティア講師が協力して、夏休みの宿題、初歩レベルの日本語の読み書き、算数（九九掛算）等を個人指導した。
- ・第 2 期は 2 学期に転入してくる言葉の壁に悩む児童生徒を対象に、学業のほか地域社会に溶け込むように国際学級の授業で不足する教師を支援、学習サポートを実施した。
- ・第 1 期、第 2 期全体で実施回数 50 回を目標に実施した。

### 3 実施結果（実施の効果等）

豊橋市内には派遣会社が多くある関係から外国人児童生徒の転出入が多く、平成 17 年 4 月の新入学児童は 130 名で、その半数は日本の保育園に行っておらず、4 月から 2 月までの間に新規に市内に転入した児童生徒数は約 250 名に達し、その時期は 4 月と 9 月に集中している。

第一期（夏休み期間）は 1 学期に指導した個人別指導状況から判断し、集中的に日本語教育の基礎を固め、学年授業についていけるように指導した。

- ・多米小サマースクール 9 回（7 月 22 日～8 月 30 日）火曜、金曜 14 時～15 時学校の校舎改築工事のため多米校区市民館を教室に充当した。  
1 学年 14 名、2 学年 5 名、3 学年 6 名、4 学年 10 名、5 学年 5 名、6 学年 4 名、計 44 名を指名し児童に予め目標を与え、夏季の間に集中的に指導した。

国際学級担当の先生をカバーするため全校のクラス担任の先生が夏季期間中 2 回参加、PTA から 10 名と NPO から 6 名が参加しマンツーマンによる指導を行った。

- ・ 岩西小国際学級夏休み勉強会 15 回（7 月 22 日～8 月 30 日）お盆前のプール授業のある期間に 11 回、お盆後に 4 回月曜から金曜まで開催日を指定した。  
先生は 9 時から 11 時 30 分まで国際教室に待機し、生徒は特に指名せず自主参加で毎回 15 名程度が自分の都合のいい時間に自由に教室で指導を受けた。  
国際学級担当の先生のほかに低学年担任の先生が数名協力、NPO から 5 名が参加して指導した。

第二期（二学期）は 9 月以降の転入生を視野に入れ国際学級での学習支援に当たった。

- ・ 多米小国際学級 17 回（10 月 3 日～12 月 12 日）月曜、金曜  
月曜日は 1 学年 13 名を指名、金曜日は 2 学年 6 名と 3 学年 5 名を指定し、ほかに特別参加を認め毎週 1 回を目標に実施した。  
学校から国際担当の先生 2 名、PTA から 11 名と NPO から 6 名が参加しマンツーマンによる指導を行った。教室はサマースクールと同じく校舎改築工事のため多米校区市民館で実施した。
- ・ 岩西小国際学級 10 回（9 月 10 日～10 月 28 日）火曜、金曜の 2, 3 時限に学校側の要望で 9 月、10 月に集中して指導を行った。  
国際担当の先生と NPO から 5 名が参加し学習支援に当たった。

学校では、様々な努力や取り組みが行われているが、日本語指導者が児童数の増加に追いつかない実情にある。学習サポートは支援期間中に次のような指導成果を上げた。

場所	多米小			岩西小			合計		
	回数	延生徒数	延指導者	回数	延生徒数	延指導者	回数	延生徒数	延指導者
1 期	9	255	229	15	204	129	24	459	358
2 期	17	177	218	10	84	44	27	261	262
合計	26	432	447	25	288	173	51	720	620

学習サポート受講児童数（実数） （単位：人）

学校	多米小			岩西小			合計		
	総数	サマー	2 学期	総数	サマー	2 学期	総数	サマー	2 学期
1	25	18	13	8	4	1	33	22	14
2	9	8	6	12	5	1	21	13	7
3	9	7	5	16	9	7	25	16	12
4	19	16	-	18	13	1	37	19	1
5	11	8	-	11	4	-	22	12	-
6	6	5	-	23	7	2	29	12	2
合計	79	62	24	88	42	12	167	104	36

外国人児童総数は 05 年 9 月現在

#### 4 事業の特質（工夫した点など）

「母語が話せるボランティア」や「日本語教育の経験あるボランティア」を研修・登録した上で、学校現場での外国人児童生徒の学習を支援した。

##### （1）ボランティア指導員研修会（外国人教育支援ボランティア養成研修の実施）

回数	日時	場所	人員	講師・講義
1	7月2日（土） 10:00～11:00	豊橋市東陵 地区市民館	20人	NPO フロンティアとよはし伊藤育雄 「多文化共生に関する考え方を学ぶ」
2	7月2日（土） 11:00～12:00	豊橋市東陵 地区市民館	20人	豊橋市外国人教育相談員 築樋博子 「日本の学校文化と外国人の子どもの課題について学ぶ」
3	7月9日（土） 10:00～12:00	豊橋市東陵 地区市民館	20人	豊橋市外国人教育相談員 築樋博子 「子どもの日本語指導について学ぶ」
4	8月6日（土） 10:00～12:00	豊橋市多米 校区市民館	20人	豊橋市外国人教育相談員 築樋博子 「教科学習サポートの方法を学ぶ」
5	10月17日（月） 15:00～16:00	豊橋市多米 校区市民館	50人	静岡文化芸術大学助教授石川エウニセ 「家族は子どもの教育にどうかかわるか」（出稼ぎ型ライフスタイルと親の悩み）

第5回研修会は「講演会」形式で多米小学校の先生はじめ一般の参加を可能にした。

##### （2）学校とNPOとの連絡会（学校・NPO連絡会議）

学習支援を実施する小学校とNPOボランティアの連携を強化し、円滑に事業を展開するため学校とNPO関係者により毎月連絡会を開催した。

月	学校	日時	検討内容	NPO
7	多米小	19日（火）AM	支援内容の詳細打合せ サマースクール日程・名簿	伊藤・野澤
	岩西小	19日（火）PM	支援内容の詳細打合せ 夏休み勉強会日程・名簿	伊藤・伴野ほか4名
8	多米小	30日（火）	教室の反省・2学期の取り組み	伊藤・野澤・丸地
	岩西小	26日（金）	教室の反省・2学期の取り組み	伊藤・伴野・内田
9	多米小	20日（火）	講演会の開催打合せ	伊藤
	岩西小	30日（金）	2学期の日程確認	伊藤、草野
10	多米小	31日（月）	視察・報道取材の打合せ	伊藤、丸地
	岩西小	28日（金）	2学期参加者のまとめ・反省	伊藤、伴野
11	多米小	28日（月）	クリスマスの集いの打合せ	伊藤、野澤、丸地
12	多米小	12日（月）	2学期参加者のまとめ・反省	伊藤、野澤

学校側参加者：多米小 山口教頭、 岩西小 福井教頭

## 5 今後の課題

### (1) 学習支援事業の継続性

- ・従来ボランティアによる「外国人児童生徒を対象とした教育支援事業」は学校施設外の場所と授業時間外で実施してきた。
- ・今回、愛知県による委託事業において、豊橋市内 2 小学校で実施した「学習支援」は初めての試みであったが、学校内に質の高い支援を成功させたことにより今後の NPO と学校の「協働モデル」として注目され、継続発展が期待されている。
- ・今回の愛知県の支援事業は本年度の単独事業であり、来年度以降も質の高い支援を継続実施するためには行政による予算的裏付けが必要である。
- ・豊橋市内に転入学して来る外国人児童生徒は毎年増加しており、来年 4 月に 214 名のブラジル人児童(05 年 10 月現在)が就学年齢を迎える。
- ・足りない教師のサポート体制を整えることは緊急の課題である。

### (2) 外国人児童の不就学問題と義務教育化

05 年 11 月四日市市で開かれた「外国人集住都市会議」で、不就学問題はとりわけ高い関心を集め、「外国人に就学義務は課されていない」現状を続けている限り問題の解決に展望はないとして「外国人の子どもにも義務教育を適用すること」など国への要望をまとめた。

- ・「児童の権利に関する条約」は初等教育を義務的なものにする前提としての教育環境を本格的に整備することが国の施策として求められている。
- ・日本語教育免許の新設や外国人教育の専門教員養成などの国の施策のほか外国人児童の多い愛知県としては、今回実施した「多文化共生教育支援事業」の拡大を本格的に検討すべき段階にきている。
- ・愛知県からも「教育を受ける権利義務の法令上の明記」「親の在留資格の更新要件として子どもの就学を定める」などの制度を国に要望して頂きたい。

## 6 その他参考事項

### (1) 県外・県内からの学習指導参加者、視察者が多かった。

- ・大学の先生(立教大、淑徳大)
- ・大学生(立教大、淑徳大、南山大、名古屋大、愛教大)
- ・小学校教師(豊田市、小牧市、可児市)
- ・行政関係(豊橋市若手職員)
- ・NGO・NPO 関係者(関西、名古屋)

### (2) プレスの取材が多かった。

サマースクール、2 学期での学習サポート、講演会、クリスマスの集いなどに地元 3 紙(中日、東愛知、東日)が記事掲載した他、月刊「ガバナンス」1 月号に「学校を多文化共生活動の拠点に」カラーグラビアで多米小学校と NPO の協働をテーマに掲載、中日に「義務教育の外側で」と第 1 部 3 回に亘り多米小学校の学習サポートに参加した児童の「明」「暗」が不就学問題として掲載された。

(3) 「クリスマスの集い」に学習サポート参加児童の親子が参加した。

例年開催する「クリスマスの集い」に学校を通じ学習サポート参加児童の親子に参加を呼びかけ、総参加者 80 名のうち親 8 名、子ども 12 名、計 20 名が参加、日本人ボランティア親子との交流を深めた。

(4) 多米小・岩西小学校と参加ボランティアの感想と今後の改善意見

ア．学校関係者

- ・ボランティアの応援で、多くの目で子どもたちを見て頂けたため、マンツーマンによる指導やきめ細かな対応ができた。子どもたちも、ボランティアが親しみを持って指導して下さったので、安心して勉強に集中できた。
- ・国際担当の先生の手が足りない部分を PTA や NPO のボランティアの先生方に来て頂き、ボランティアの先生が多かったのでマンツーマンによる個別指導がしっかり出来た。大変感謝している。
- ・来年も継続して年間を通じて来て頂きたい。

イ．PTA・NPO ボランティア講師

- ・サマースクールは毎回指導する生徒が異なったが、2 学期は自分の子どもと同じ学年、同じ子を見るようになり、学力や性格を見ながら適切に指導できたのが良い。
- ・どこまでこちらの言葉を理解出来ていたのか判断が難しく、どの程度まで教えるべきか悩み事前の研修会も含め学校側からの指導が必要と思う。
- ・授業後、学校の先生方との話し合いが参考になった。
- ・大学生の参加は子どもたちの年齢が近いだけに楽しそうだ。
- ・多米校区市民館は冷房があるが、岩西小では冷房がない、その日の状態によって涼しい部屋で学習できることを検討してもらいたい。
- ・大阪のアジアの子どもに比べて豊橋の子は、大変明るく人なつこいのが印象的だった。(関西からの視察ボランティア)
- ・「マンツーマン」だと熱心に勉強するが、誰もついていないと集中できずにほかの子にチョコカイをかける子がいるのでボランティアの数が必要である。
- ・短い期間だったが、コツコツと嫌がらずに頑張った子は、読み書き共に上達した。
- ・折り紙や割り箸を使った工作している子が多いと、学習プリントで勉強している子は集中出来ずにいた。(岩西夏休み勉強会は工作の宿題が出来る)
- ・指導を通じ地域社会に貢献出来ることに喜びを感じ、外国籍児童が日本の学校に慣れ、文化を学び成長してくれることを願っている。